

第 12 回環太平洋コミュニティデザインネットワーク会議:「過去と将来を見据えて:危機に瀕したコミュニティと正義」にてシンポジウムと現地視察が行われました (2023/9/16-18)

テーマ: コミュニティ復興、まちづくり、東日本大震災、原子力災害、福島、国際シンポジウム

場所: 災害科学国際研究所、仙台市、双葉町、浪江町、南相馬町、富岡町

URL: <http://prcdnet.org/working-conferences-papers/2023-tohoku/>

9月16日~18日に、環太平洋コミュニティデザインネットワーク第12回会議「過去と将来を見据えて:危機に瀕したコミュニティと正義」が東北で開催され、当研究所でのシンポジウムや福島の被災地への現地視察などが開催されました。このイベントは、マリ・エリザベス准教授(国際研究推進オフィス)が共同議長を務め、東北大学災害科学国際研究所(IRIDeS)とエコロジカル・デモクラシー財団、環太平洋コミュニティデザインネットワークとの共催により開催されました。

環太平洋コミュニティデザインネットワークは、1998年にカリフォルニア大学バークレー校で最初に発足し、それから25年間、日本、台湾、米国の主要なコミュニティデザイン学者や実務家を集めてきました。このネットワークは、協力と相互支援のための手段を提供するだけでなく、環太平洋地域の急速に変化する政治的および社会的文脈におけるコミュニティデザインの比較理解のためのフォーラムを提供し、現在、オーストラリア、カナダ、中国、エクアドル、インドネシア、日本、ニュージーランド、フィリピン、シンガポール、韓国、台湾、タイ、そして米国が加盟国となっています。

ネットワーク設立25周年を記念したこのイベントは、コロナ禍後初めての対面での会合であり、また2010年の日本での会合以来の日本での開催であり、2011年3月11日の東日本大震災後、被災地にネットワーク一堂が集まるのも初めてでした。コミュニティデザインと正義をテーマに、福島の被災地を訪問し現状を理解することに焦点が当てられました。

9月16日には参加者は双葉町を訪れ、夕方から17日にかけて、4つの班に分かれて南相馬市小高区、富岡町、双葉町、浪江町に滞在し、若者、読み聞かせ、地域復興などをテーマに地域を訪問しました。現地視察のコーディネーターは、多くのネットワークメンバーの協力を得て行われ、東北大学からは、ゲルスタ・ユリア助教(災害文化アーカイブ研究分野)、窪田亜矢教授(東北大学大学院工学研究科・工学部 都市・建築学専攻 都市・建築デザイン学講座)が協力しました。

18日には、仙台の当研究所で行われたビッグテーブルで参加者が一堂に会しました。午前中は、各グループが学んだことを共有した後、福島大学の川崎興太教授による特別発表、ランディ・ヘスター名誉教授(カリフォルニア州バークレー校・環境デザイン学科)のコメント、参加者全員とのディスカッションが行われました。また、40名以上の参加者がポスター発表しました。当研究所からは、マリ准教授、北村美和子特任研究員:助教(国際研究推進オフィス)と千葉直美客員研究員(災害人文社会研究部門)が発表しました。

18日午後には、ネットワーク25周年記念シンポジウムで、ランディ・ヘスター教授によるネットワークの歴史を振り返る特別基調講演、将来を見据えるパネルディスカッションが行われました。

文・写真: マリ・エリザベス (国際研究推進オフィス)
(次頁へつづく)



9月16日に双葉町で行われた参加者全員の
集合写真



9月17日に浪江町対馬地区を訪れた
小グループ参加者



9月18日午前中のビッグテーブルギャザリング
現地視察の経験を共有する



9月18日のシ
ンポジウムでの
ランディ・ヘス
ター教授による
特別基調講演



パネルディスカッション



参加者の集合写真